

福岡市都市景観賞審査委員会委員
(50音順 敬称略)

池田美奈子 ● 九州大学准教授
包清 博之 ● 九州大学教授
坂井 猛 ● 九州大学教授
佐藤 優 ● 九州大学教授
中村 敏子 ● 九州朝日放送(株)広報室
松本 法雄 ● 福岡市住宅都市局長
三浦 佳世 ● 九州大学教授
森岡 侑士 ● NPOデザイン都市・プロジェクト理事長
山下 三平 ● 九州産業大学教授

第22回 福岡市 都市景観賞

The 22nd FUKUOKA Urban Beautification Award 2008

受賞作品

一般表彰 ● General Commendation Review

季離宮は国体道路から今泉地区に少し入った場所に比較的狭い道路に面する。建物は、上離宮、中離宮、下離宮の3棟で構成され、その棟間には中高木や低木・地被類を配し、四季の移ろいを体感できる仕掛けとなっている。また、地形を巧みに取り入れ、建物の高さを10m以下に抑えることで、樹木の高さとの絶妙なバランスが保たれ、この場所が都心の商業地であることを忘れさせてくれる心地よさを醸し出している。良好な景観は、周囲に良好な景観を誘発する効果をもたらす。隣接地の博多五行との調和の取れた景観形成は、今後の今泉のまちづくりに大きな作用をもたらすに違いない。

(審査委員 松本 法雄)



季離宮 (ときりきゅう)
中央区今泉1丁目18番25号

用途: 商業施設
完成年月: 2006(平成18)年10月
所有者: (株) 善工務店 / (有) セン
設計者: BAS建設設計事務所
施工者: (株) 善工務店
関係者: (株) ナオキクリエイティブ



審査会場に入ったとたんに例年以上の熱氣に圧倒されそうになった。今年の景観賞は、797票の推薦をいただき、過去2番目の多さだった。景観賞受賞対象をめぐるツアーや歴史的景観地区のライトアップイベントなど、景観の大切さを伝えるイベントを積み重ねてきた結果であろう。昨今の景気低迷の中で、応募数も減るかもしれないと危惧していたが、市民の皆さんに支えていただいた。

一次審査から最終審査に残ること自体が難しい。今年審査員の注目を集めたものは、玄界島のエレベーターだった。福岡沖地震で甚大な被害を受けた玄界島の復興がすみやかに成し遂げられ、明るい日差しの中で生活がもどってきていた。急な坂道の上り下りが困難な方々のために、市営住宅のエレベーターを利用可能にしたもので、画期的で意義のあるものだった。賞の対象からははずされたが、ここであえて称賛しておきたい。

受賞した対象は、すべて景観への貢献が顕著で、整備の方針が明快なものである。特に「ふくおかフィナンシャルグループ本社ビル」は、故黒川紀章設計の天神のビルを彷彿させる微妙な連続性を有し、入口周辺の緑が鏡に映ったように福岡城跡の濠に続く巧みな設計だった。立派な株立ちのケヤキがシンボルツリーとして理念とのかかわりを想像させる。

「季離宮」も審査員全員が高く評価したもので、緑の回廊がつなぐ飲食等の商業施設がヒューマンスケールの心地よさを演出してい

た。「九州大学 旧工学部本館」は、昭和5年竣工の堂々とした建物であり、伊都キャンパスへの移転後も保存し有効に活用することが期待される。「旧福岡県公会堂貴賓館」も、同じく明治43年竣工の貴重な木造公共建築物で、公園の一画を形成し親しまれている。

「ツイン・アート・ギャラリー」は、住宅地の中で四季の植物と小規模なイベントで生活を彩る。「香椎御島崎・片男佐地区遊歩道」は、夏には悪臭が漂っていた海を、散歩できる湾岸遊歩道へと変えた。「新天町サンドーム」は、西鉄と新天町がつながる空間を環境音楽が流れる快適なドームで覆い、地域発展の足がかりとした。「柚子庵」は、交通量の多い道路際で、動植物園地区の緑とのすぐれた調和を見せている。

特別表彰への応募も昨年の倍ほどになった。景観づくりへの活動が根づいてきていることを物語っている。今後は、表面的に活動を紹介するだけでなく、活動の意義や今後の展開の可能性も紹介していただきたい。

景観エッセーは、応募者の景観への愛情に心と和む思いがし、いつも楽しみにしている。今回は評点がほぼ一線に並び、選考が困難であったことを付記しておきたい。

こうして振り返ってみると、今年は緑への取り組みが久しぶりに目立った年だった。さまざまな分野の方々が力を合わせて、そして力をつないで、福岡の景観の魅力を高めている。

審査委員長 佐藤 優

南公園の北西に位置し、動物園・植物園を経由するバスの通りに面した日本料理のお店である。通りからの眺めは30年以上の時を経て、森の緑にほどよく溶け込んだ印象を与える。建物の造りはひかえめで、森との調和をはじめから意図していたことが分かる。門の暖簾をくぐるとすぐに緑陰に包まれて、バス通りに面していることを忘れる。そこから斜面の上の玄関へと導く階段は側壁に巨石を配し、基盤となる切石の石段とところどころに木製の段を取り入れる組み合わせが心地よい。鳥のさえずりも聞こえる。地形と植生と素材を活かした伝統的な日本の空間形成が、サステイナブル(持続可能)なデザインのモデルだということを、分かりやすく示す風景だ。(審査委員 山下 三平)



柚子庵

中央区桜坂3丁目80番1号

用途:料理店

完成年月:1985(昭和60)年9月

所有者:白鳥頼敏

設計者:(株)栄和設計コンサルタント

施工者:(有)高井良建装

